

初級後半レベルにおける聴解活動を取り入れた授業活動の試み

宗 林 由 佳

1. 背景

本稿は短期留学生日本語プログラムの初級後半レベル（NP2）の授業において試みた授業活動について報告するものである。NP2コースは、主教材を『NEJ（NEW APPROACH ELEMENTARY JAPANESE）－テーマで学ぶ基礎日本語 Vol.2』とし、2020年4月からオンラインによる授業が始まり、担当教員により様々な工夫が授業に取り入れられてきた。Zoom Meetingを用いて同時双方向型授業を可能とし、ブレイクアウトルームの有効活用、Google classroom を活用し、学生によるスライドの作成・編集など授業活動に様々な工夫が加えられた。そして「Talking time」では、各課で学習した文法・句型、語彙、表現を使い、それらを活用した形で学習者が自由に自分のことを話すことを目的に実施された。教員の様々な活動実践によりアウトプット能力、自己表現能力が向上したと言えるだろう。しかし、コミュニケーション能力とは、独話による自己表現能力だけでなく、会話、つまり双方向のやりとりができることも重要な能力だと言える。そこで、本コースでは「スペシャルクラス」が設けられ、教科書から離れて、「聞く」「話す」を主とした活動時間が組み込まれた。そこで実践された小さな試みについて以下詳細を述べる。

2. 改善とその結果

教科書の単元がある程度進み、中間テストが実施された翌日に「スペシャルクラス」が90分（1コマ）設けられた。「話す」「聞く」を中心とした活動は通常の授業でも実践されていることだが、新たに「聴解活動」を取り入れ、ドラマ視聴から会話練習へと活動を発展させる内容とした。ドラマを用いた聴解活動を取り入れることにより、次のことが可能となった。①日本人による2発話以上の長いやりとりを聞く機会 ②年齢、性差等に見られる様々な日本語を聞く機会 ③映像

の中に見られる「日本」を発見する機会 ③初級教材では扱っていない、縮約形や音変化、驚きや怒りなどを示す音声表現に触れる機会。また、オンライン授業で日本の生活体験もできない状況にあることから、日本人の生活の様子、日本人家族が住むマンションの部屋の様子を自分の目で見ること、例えば「台所」という語彙がさらに具現化できる等、日本のドラマを用いることに有用性があると判断した。また、学習者の日本語レベルにとらわれず、初級レベルだから初級用の教材を使うという考えも捨て、生の教材から選定し、上級レベルの聴解練習にも使えそうなドラマから、親子の会話部分（3分程度）を授業活動に取り入れることとした。授業のテーマは「話しましょう！親と子ども」とし、親のしつけや子供の育て方をテーマに、4つの活動の流れを作った。活動1「自分の経験を話す」では両親がきびしかったかどうか自分の体験を友だちと話す（グループ活動）、活動2「自分が親だったらどんなことをさせたいか、またしてあげたいか」を話し合う、Google classroom スライドに各自書き込み、全体で共有する。活動3「ドラマ視聴」ドラマを見て変だと思ったこと、発見したことを話す、活動4「会話作成・発表」親子の会話を作り、スライドに記入、ペアで発表する。活動3「ドラマ視聴」のドラマの内容は、母親が子供を起こすという場面から親子の会話が展開される。「なにやってんの」「いつまで寝てんの」「もう、まったく～」という発話、台所でお弁当を作る母の姿、食卓で両親と子供が朝ごはんを食べる場面を切り取り、視聴解の素材とした。ドラマを用いた聴解活動により会話作成・発表に次のような変化が見られた。①映像を与えることにより親子の会話のイメージができ、作成がしやすくなった。②以前「自分の子供に」という設定で進めたときに、「自分」に子供がいるかどうかわからないから考えられないとしていた学生が、映像が仮想空間となり、容易に場面設定に入り込みやすくなった。③ドラマで聞いた音声を真似て演じる学生も見られ、耳から入る情報を学生が積極的に活

用するようになった。

ドラマ視聴は初級レベルでは難しいことが懸念されたが、学生からは特に難しいという反応はなく、授業終了時には次のようなコメントが出てきた。(原文のまま一部を記載する)

1. 面白かったです！教科書以外のことを勉強すると会話を練習するのはとてもいいことだと思います。
2. 私は友達とかいわと映画を見て文法を習いました。いいと思います。
3. この授業はとても楽しかったと思います。色々な活動が好きで、特に日本語で話したり、聞いたりする練習を楽しんでいました。その上、話の例とビジオは面白かったです。

3. 今後に向けて

今回の試みは、ドラマを用いた聴解活動を授業に取り入れるという小さな試みであったが、学生が授業活動に積極的に取り組むきっかけとなったこと、また日本語だけでなく日本人の生活(日本人のお弁当)を見て文化の違いを発見する機会となったことから、ドラマ視聴を取り入れることにより一つの活動が重層化され、学生それぞれの関心や興味を満たすことにつながったと考えられる。今後は、「スペシャルクラス」の時間を増やしこのような学習の機会を作ることも考えられるが、通常の授業活動に3分から5分程度の動画を取り入れ、授業活動を組み立てる試みを続けていきたい。